

## 川崎市生田緑地の直翅（バッタ）目の記録

川島逸郎\*・高梨沙織\*

Records of the order Orthoptera from the Ikuta-Ryokuchi Park, Kawasaki-shi, Kanagawa Prefecture

Itsuro Kawashima\* and Saori Takanashi\*

現在の生田緑地は、その多くを樹林で占められ、草原環境は狭く限定された部分や、隙間のように残存した部分に、ごくわずかに残されるにすぎない。加えて、人工的な公園管理がなされる中で、かなり徹底した草刈り等も実施されているため、例えば、ススキを中心とした茅場のな微環境や低茎草地の存続も、限定的に留められた現況にある。そのためか、とりわけ草地を好んで生活するバッタ類は、その種数、個体数ともに多くない。そこで本報では、川崎市生田緑地における直翅（バッタ）目のこれまでの記録を総括するとともに、現在までに記録された種構成を概観することで、現状を可能な限り把握することに努めた。そこから、このグループを指標とした生田緑地の自然環境の現状を中間報告的に提示することを目標とした。目録においては、2017年度下半期の時点までに公表された文献記録に加えて、川島他（2017）以降に川崎市青少年科学館（通称：かわさき（そら）と緑の科学館）に収蔵され、同定がなされたうえで登録番号を付した配架済みの乾燥標本も、オリジナルデータとして付与している。

これまでのサンプリングや調査不足により、通常は普遍的にみられる種であっても、記録として欠落しているものが多いが、本報文が、以降の調査に際しての土台になれば幸いである。

## 凡例

- 1) 学名および和名、種の配列は、日本直翅類学会（編）（2016）に従った。
- 2) 標本データは個体数、性別（判明したもののみ、以下3）参照）、採集地名、採集年月日、採集者および機関略号+標本番号の順に記した。
- 3) 性別は記号（♂♀）で示したが、不明の場合は、単に個体数を示す「ex(s).」と記した。
- 4) 採集または目撃場所は、大まかに北（西）から南（東）へと配列し、すべて多摩区に含まれるために区名は省略した。
- 5) 同一産地の標本は、採集年月日の新しいものから順に配列した。
- 6) 採集年月日は、西暦4桁と月日とを繋ぐ8桁の数値で表した（例：2009年7月21日=20090721）。
- 7) 川崎市青少年科学館（通称：かわさき宙（そら）と緑の科学館）として採用した機関略号のうち、昆虫類標本として「KMM-IN (Insecta)-」を用いた。
- 8) 昆虫綱は多くの下位分類群を含むため、登録番号の最初の2桁で目（Order）を分けたが、直翅（バッタ）目には「09-」を割り当てている。

## 目録

直翅（バッタ）目 Order Orthoptera

コオロギ科 Family Gryllidae

エンマコオロギ *Teleogryllus emma* (Ohmachi & Matsuura, 1951)

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；枳形（生田緑地）（川島他, 2017）。

草地周辺や耕作地脇等の、枯れ草や藁が堆積した下などにしばしば潜む普通種であるが、生田緑地においては、その声を聞く機会は意外に少ない。恐らくは、やはり草地環境の少なさに加えて、公園管理の徹底から、刈られた草積みの放置もない事などが影響している可能性もあろう。

モリオカメコオロギ *Loxoblemmus sylvestris* Matsuura, 1988

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；枳形（生田緑地）、枳形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

[記録] 1♀, 枳形7丁目（生田緑地・つつじ山）, 20171018, 川島採集 (KMM-IN-09000410); 1♂, 枳形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170916, 川島採集 (KMM-IN-09000307); 1♂, 枳形7丁目（生田緑地・青少年科学館）, 20170930, 川島採集 (KMM-IN-09000353); 1♂, 同前, 20171003, 川島採集 (KMM-IN-09000354); 1♂, 同前, 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000365)。

林床や林縁の落葉下に多い種で、樹林の面積が多くを占める生田緑地においては、コオロギ科の最優占種とみなされる。日中および夜間とも、その鳴き声を聞く機会がひじょうに多い。いっぽう、ごく近縁のハラオカメコオロギ *Loxoblemmus campestris* Matsuura, 1988 も生息している可能性は高いものの、現在まで、確かな記録がない。

ミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi* Stein, 1881

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；枳形（生田緑地）（川島他, 2017）。

時折、本種と推定される強い調子の鳴き声が聞かれるが、現在までに得られた標本も少なく、生息状況の実態は、現在に至るまで、必ずしも明らかとはいえない。

ツツレサセコオロギ *Velarifictorus micado* (Saussure, 1877)

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011）；枳形（生田緑地）（川島他, 2017）。

前種と同様に、強い調子で鳴く声を時折聞くことができるが、現在までに得られた標本もわずかに留まっており、現時点では、生息状況の実態は、前種と同様に明らかとはいえない。

\*川崎市青少年科学館（かわさき宙<sup>そら</sup>と緑の科学館）  
Kawasaki Municipal Science Museum

クマズムシ *Sclerogryllus punctatus* (Brunner von Wattenwyl, 1893)  
[文献記録] 生田緑地 (雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011); 柘形 7 丁目 (生田緑地・ゴルフ場); 柘形 (生田緑地); 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20171017, 川島採集 (KMM-IN-09000362).

生田緑地においては、林縁や溝の底に溜まった落葉下などにみられることが多く、時折、日没後に特徴的な鳴き声を聞くことができるが、その頻度は高いとは言えず、個体数は、必ずしも多くはないようである。

#### マツムシ科 Family Eneopteridae

アオマツムシ *Trujalia hibinonis* (Matsumura, 1917)

[文献記録] 生田緑地 (雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011); 柘形 (生田緑地); 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 1♀, 柘形 (生田緑地), 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000343); 1♀, 同前, 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000344); 1♀, 同前, 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000345); 1♂, 同前, 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000346); 1♀, 同前, 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000347); 1♂, 同前, 20151015, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000348); 1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000363); 1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館), 20171026, 川島採集 (KMM-IN-09000364); 1♀, 同前, 20171017, 川島採集 (KMM-IN-09000402); 2♀, 同前, 20171028, 川島採集 (KMM-IN-09000403-09000404).

国外外来種であるが、晩夏から秋期にかけては、樹上から大量の鳴き声が聞かれ、直翅(バッタ)目全体の中でも最優占種となっている。晩秋に向かうに従って日中にも鳴くようになる。

#### ヒバリモドキ科 Family Trigonidiidae

キンヒバリ *Natula matsurai* Sugimoto, 2001

[文献記録] 生田緑地 (雛倉, 2011) .

湿った谷戸底や水辺周辺のヨシ群落などに好んで生息するため、生田緑地における生息域は限定的である。中央広場周辺では、「奥の池」岸辺の群落でも、例年、少数ながら鳴き声が確認される。

クサヒバリ *Svistella bifasciatus* (Shiraki, 1913)

[文献記録] 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 1♂1♀, 柘形 6 丁目 (生田緑地・日本民家園), 20170927, 川島採集 (KMM-IN-09000373-09000374); 1♂1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000371-09000372); 4♂, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20171005, 川島目撃.

生田緑地における樹上性の種の中では、ひじょうに個体数も多く、最優占種のひとつといえる。姿を見る機会は少ないが、晩夏から秋にかけて、とりわけ朝方や曇天の日に、盛んに鳴く声を聞くことができる。

ウスグモズ *Amusurgus genji* (Furukawa, 1970)

[文献記録] 生田緑地 (雛倉, 2016); 柘形 (生田緑地), 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 3♂1♀ (長翅型), 柘形 6 丁目 (生田緑地・日本民家園), 20170927, 川島採集 (KMM-IN-09000383-09000386); 1♂, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館), 20170910, 川島採集 (KMM-IN-09000387); 1♂, 同前, 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000388).

国外外来種とされる種。♂が発音しないため、生息の実態はやや掴みにくいが、個体数は多いようで、植え込みや樹枝をスウィーピングすると、かなり高い頻度で本種が得られる。

ヤチスズ *Pteronemobius ohmachi* (Shiraki, 1930)

[文献記録] 柘形 (生田緑地); 柘形 7 丁目 (生田緑地・ゴルフ場) (川島他, 2017) .

水辺の周辺や岸辺など、湿った部分を好む種。生田緑地での湿地部分は限定的になりつつあるため、キンヒバリなどと並んで、本種の今後の動態には留意が必要であろう。

マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus* (Matsumura, 1904)

[文献記録] 生田緑地 (雛倉, 2016); 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 3♂3♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・中央広場脇), 20170910, 川島採集 (KMM-IN-09000377-09000382); 2♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館研究管理棟前), 20171005, 川島目撃.

ごく丈の低い低茎草を好む種で、芝地など、かなり人工的な環境にも進出し、その個体数も多い。生田緑地においては、中央広場の芝生などでも、多くの鳴き声を聞くことができる。

シバズ *Polionemobius mikado* (Shiraki, 1913)

[記録] 1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・中央広場脇), 20170910, 川島採集 (KMM-IN-09000376).

前種と同様に、芝地や低茎草に多いが、前種ほどには人工的な環境は好まないらしく、通常、個体数はより少ない。

#### カネタタキ科 Family Mogoplistidae

カネタタキ *Ornebius kanetataki* (Matsumura, 1904)

[文献記録] 生田緑地 (雛倉・坂本, 2007); 柘形 (生田緑地・ゴルフ場); 柘形 (生田緑地); 柘形 7 丁目 (生田緑地) (川島他, 2017) .

[記録] 1♂, 柘形 6 丁目 (生田緑地・日本民家園), 20170927, 川島採集 (KMM-IN-09000375); 1♀, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20170910, 川島採集 (KMM-IN-09000370); 2♀1♀ (幼), 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館裏), 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000367-09000369); 1♂, 柘形 7 丁目 (生田緑地・青少年科学館研究管理棟前), 20171005, 川島目撃.

一般的に、樹上性の優占種であるが、生田緑地においては、クサヒバリと比較すれば、その個体数はやや少ないようである。

#### アリツカコオロギ科 Family Myrmecophilidae

クサアリツカコオロギ *Myrmecophilus kinomurai* Maruyama, 2009

[記録] 1♀, 柵形6丁目(生田緑地・川崎市立日本民家園), 20170706, 川島採集 (KMM-IN-09000395).

本属の1種は、「アリヅカオオロギ *Myrmecophilus sapporensis* Matsumura」として、生田から記録されている(寺山, 1981)。

今回、地表を歩く1個体が得られたが、生活の特殊性に伴う調査不足もあり、現時点での生息実態は不明である。ただし、他地域では本属の種は必ずしも稀ではないため、寄主となるアリ類の巣内を調査することで、以降、新たな記録も得られるであろう。以下に、胸部および腹部背面における表面構造の電顕(SEM)写真を示しておく(図1-2)。すなわち、鱗毛は先端に向かって広がり、側方角はほぼ直角で中心角は短いといった点や、体表面は棘状突起で密に覆われる点(日本直翅類学会(編), 2006)から、本種と同定した。

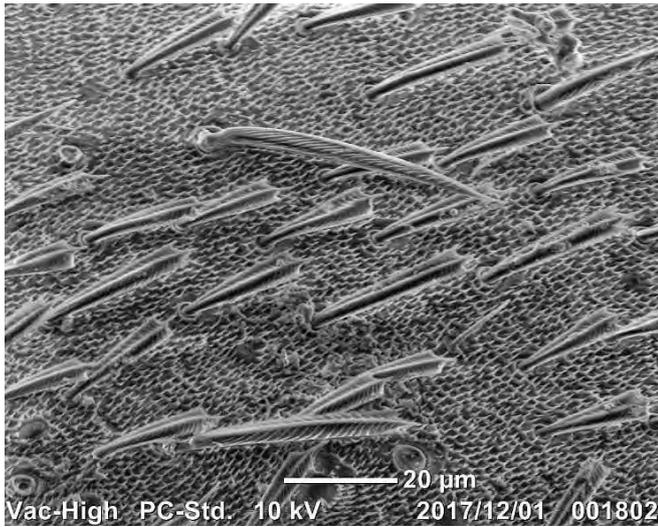


図1. 胸部背板の鱗毛および表面構造(×1,000)。

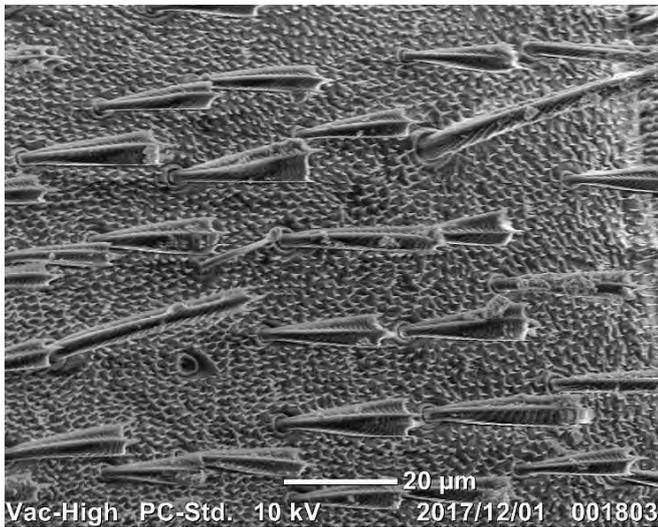


図2. 腹部背板の鱗毛および表面構造(×1,000)。

ケラ科 Family Gryllotalpidae

ケラ *Gryllotalpa orientalis* Burmweister, 1839

[文献記録] 柵形(生田緑地), 柵形6丁目(生田緑地), 柵形7丁目(川島他, 2017)。

[記録] 1 ex. (幼虫), 柵形7丁目(生田緑地・中央広場), 20170924, 川島採集 (KMM-IN-09000366); 1 ex. (鳴き声), 柵形7丁目(生田緑地・青少年科学館自然学習棟前), 20171003, 川島聴き取り。水域も少なく、湿った場所の少ない生田緑地の現状においては、個体数は多いとはいえない。時折、路傍の植え込みの地中や、側溝の基底に溜まった土壌中からも鳴き声が聞かれる。

コロギス科 Family Gryllacrididae

コロギス *Prosopogryllacris japonica* (Matsumura & Shiraki, 1908)

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2011); 柵形(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♂(幼虫), 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170718, 川島採集 (KMM-IN-09000355).

やや大型の種であるが、発音しないことも相俟って、生息の実態を把握しにくい。稀に樹上などに見かける程度で、個体数は多くはなさそうである。同科に属するハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus* (Matsumura & Shiraki, 1908) も生息の可能性はあるが、現在まで確認されていない。

キリギリス科 Family Tettigonidae

ヤブキリ *Tettigonia orientalis* Uvarov, 1924

[文献記録] 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

通常、7月上～中旬にかけて羽化する。夏から盛夏にかけては、樹上から比較的多くの鳴き声が聞かれるものの、三浦半島など沿岸域と比較した場合、その個体密度は高くはないようである。

ヒガンキリギリス *Gampsocleis mikado* Burr, 1899

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2016); 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

雛倉(2016)でも取り上げられた1♂標本(川島他, 2017)は、中央広場周縁(西側)に植栽されたドウダンツツジで鳴いていた個体である。従来、生田緑地では確認されておらず、その後の追加記録もない状況や、採集時にみられた警戒心の薄さを考え合わせると、飼育個体の放逐など、人為によるものであった可能性が高い。

ヒメギス *Eobiana engelhardti* (Uvarov, 1926)

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2011)。

湿度の高い草地、湿地や遷移の進んだ休耕田などを好む種。谷戸底など、湿地部分が限定される現在の生田緑地においては、個体数は多くはなさそうである。近縁のコバネヒメギス *Chizuella bonneti* (Bolivar, 1890) は、本種よりも乾燥した草地を好み、砂浜海岸の後背草地や河川敷の草地などにも生息するが、生田緑地でも生息の可能性は残されるものの、現在までに確実な記録はない。

クサキリ *Ruspolia lineosa* (Walker, 1869)

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011); 柵形(生田緑地); 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♀, 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇) 20170929, 川島・高梨採集 (KMM-IN-09000393).

多少とも湿った草地を好むが、生田緑地においてはそのような微環境が少ないため、個体数は多いとはいえない。

シブイロカヤキリ *Xestophrys japonicus* Redtenbacher, 1891

[記録] 1♂, 柵形7丁目(生田緑地・中央広場), 20161004, 川島目撃・撮影。

上記の個体が、生田緑地における初記録となる。青少年科学館前の、刈り残されたススキの小群落に見出されたが、その後の記録はなく稀な種と考えられる。

クビキリギス *Euconocephalus varius* (Walker, 1869)

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011); 柵形(生田緑地); 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♀(終齢幼虫), 柵形7丁目(生田緑地・中央広場前), 20170922, 川島・高梨目撃; 1♂(終齢幼虫), 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170930, 川島目撃。

一般的には普通種で、初春に特徴的な鳴き声を聞く機会が多く、市街地の公園でもしばしばみられる。しかし、公園管理により低茎草草が除去されやすい現在の緑地においては、その個体数は多いとはいえない。

ホシササキリ *Conocephalus maculatus* (le Guillou, 1841)

[文献記録] 柵形(生田緑地)(川島他, 2017)。

一般的には、ササキリ属中もっとも普通の種で、市街地などかなり人工的な環境にも生息することが多いが、現在の生田緑地は低茎草草が少ないせい、2014年以降の確認例はない。

ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis* (Redtenbacher, 1891)

[文献記録] 柵形(生田緑地)(川島他, 2017)。

前種と並び、低茎草草により普通の種であるが、同様の要因によるものか、2014年以降の確認例はない。

ササキリ *Conocephalus melaenus* (de Haan, 1843)

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007); 柵形(生田緑地), 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♀, 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170924, 川島目撃; 1♂, 柵形7丁目(生田緑地・青少年科学館), 20170927, 川島目撃; 1♂, 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170929, 川島・高梨目撃; 1♀(産卵), 同前, 8-XI-2017, 川島目撃。

草地を好む同属種とは異なり、ササキ類を好む種。草地との関連が薄いためか、ササキリ属では唯一、現在でも比較的多くみられる。11月8日に観察した♀個体は、セイバンモロコシの細い茎に産卵行動をとっていた。

ハヤシノウマオイ *Hexacentrus hareyamai* Furukawa, 1941

[文献記録] 柵形(生田緑地)(川島他, 2017)。

樹林内や林床でみられる種であるが、2014年以降の確認例はないが、以降も、鳴き声の確認を念頭に置いた夜間調査も併せて行う必要がある。近縁のハタケノウマオイ *H. japonicus* Karny, 1907 は、

これまでの記録はない。

ツコムシ科 Family Phaneropteridae

アシグロツコムシ *Phanoptera nigroantennata* Brunner von Wattenwyl, 1878

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2016); 柵形(生田緑地), 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

幼虫、成虫ともに、林縁などの低木上や、ヌスビトハギなどマメ科植物上に静止する個体を見る機会は少なくない。

セスジツコムシ *Ducetia japonica* (Thunberg, 1815)

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007); 柵形(生田緑地), 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♀, 柵形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170929, 川島・高梨目撃; 1♀, 柵形7丁目(生田緑地・あじさい山), 20170930, 川島採集(KMM-IN-09000394)。

現在の生田緑地におけるツコムシ科では、前種とともに比較的個体数の多い種で、林縁や樹林に近い草地などでみられる。

サトクダマキモドキ *Holochlora japonica* Brunner von Wattenwyl, 1878

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2011; 2016); 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

通常は樹上で生活し、その鳴き声も小さいため、確認例としては多くはないが、現在も比較的個体数の多い種と考えられる。時折、林縁や人工植栽された低木の枝に、木屑を吹いた独特の産卵痕が見出される。

ヤマクダマキモドキ *Holochlora longifissa* Matsumura & Shiraki, 1908

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2016); 柵形(生田緑地), 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♂(幼虫), 柵形6丁目(生田緑地・日本民家園), 20170706, 川島撮影; 1♂, 柵形7丁目(生田緑地・青少年科学館前), 20170915, 川島・高梨目撃; 1♀(幼虫), 柵形7丁目(生田緑地・青少年科学館), 20170830, 川島採集(KMM-IN-09000397); 1♂, 同前, 20170901, 川島採集(KMM-IN-09000391); 1♂, 同前, 20170930, 川島採集(KMM-IN-09000396)。

前種よりも観察される頻度は少なく、生田緑地における個体密度は高くはないようである。ただし、必ずしも稀な種ではなく、時折、低木等の樹枝上や葉上で静止する個体を見かける。

ノミバツタ科 Family Tridactylidae

ノミバツタ *Xya japonica* (de Haan, 1844)

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2011); 柵形(生田緑地); 柵形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 1♂1♀(交尾), 柵形7丁目(生田緑地・菖蒲園上), 30-VI-2017, 川島目撃; 1 ex., 柵形7丁目(生田緑地), 20170720, 川島採集(KMM-IN-09000356)。

植え込みの地表や芝地の周辺など、土壌のあらわれた露地面にかなり多い。6月30日には、菖蒲園上（西側）の露地面で交尾を確認した。

#### ヒシバタ科 Family Tetrigidae

トゲヒシバタ *Criotettix japonicus* (de Haan, 1843)

[文献記録] 柵形（生田緑地）（川島他, 2017）。

湿地や湿田を好む種のため、そのような水辺の少ない現在の生田緑地での分布は、限定的となっている可能性が高い。

コバネヒシバタ *Formosatettix larvatus* Bey-Bienko, 1951

[文献記録] 柵形7丁目（生田緑地）；柵形（川島他, 2017）。

[記録] 3♀, 柵形7丁目（生田緑地）, 20170713, 川島採集 (KMM-IN-09000359-09000361)。

林縁や林床などに多い種で、過去の記録や、現在までに得られた標本は少ないものの、樹林が多くを占める生田緑地においては優占種となっている可能性が高い。

ハラヒシバタ *Tettix japonica* (Bolivar, 1887)

[記録] 2 exs., 柵形7丁目（生田緑地）, 20170826, 川島採集 (KMM-IN-09000357-09000358)。

土壌のあらわれた露地面や、ごく丈の低い開けた草地を好み、かなり人工的な環境にも進出する普通種であるが、これまで確実な記録はなされていなかった。今後の調査は、本種のような、普通とされる種の生息状況にも留意する必要がある。

#### オンブバタ科 Family Pyrgomorphidae

オンブバタ *Atractomorpha lata* (Motschulsky, 1866)

[文献記録] 生田緑地（雛倉, 2016）；柵形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

[記録] 1♀, 柵形6丁目（生田緑地・日本民家園）, 20170927, 川島目撃; 1♂, 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170924, 川島目撃; 1♀, 柵形7丁目（生田緑地・つつじ山）, 20170926, 川島目撃; 1♂1♀（交尾）, 同前, 20170927, 川島・高梨目撃; 1♂2♀, 同前, 20171018, 川島採集 (KMM-IN-09000407-09000409); 4♂, 柵形7丁目（生田緑地・青少年科学館研究管理棟前）, 20171005, 川島目撃。

草地や人家の庭まで、広範にみられる普通種であるが、生田緑地での個体密度は、さして高くはないようである。

#### バタ科 Family Acrididae

ヤマトフキバタ *Parapodisma setouchiensis* Inoue, 1979

[文献記録] 生田緑地（雛倉, 2011; 2016）；柵形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

[記録] 1♀, 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170901, 川島採集 (KMM-IN-09000309); 1♂, 同前, 20170906, 川島採集 (KMM-IN-09000310); 1♂, 同前, 20170912, 川島採集 (KMM-IN-09000311); 1♀, 同前, 20170912, 川島採集 (KMM-IN-09000398); 1♂1♀, 同前, 20170921, 川島採集 (KMM-IN-09000400 -

09000401)。

林縁や、樹林の林床に生じた下草の葉上にみられる種で、生田緑地における個体数は比較的多い。

ツチイナゴ *Patanga japonica* (Bolivar, 1898)

[記録] 5 exs. (幼虫), 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170924, 川島目撃; 1 ex. (幼虫), 同前, 20170927, 川島・高梨目撃; 1♀, 同前, 20171018, 川島採集 (KMM-IN-09000389); 1♀, 同前, 20171027, 川島採集 (KMM-IN-09000411)。

一般的には、きわめて普通にみられる種で、クズなどが侵入した丈の高い草地などに多い。生田緑地ではそのような環境が少ないせいか、その個体数は多いとはいえない。中央広場周辺では、周縁部に刈り残された草地部分に依存している。

ハネナゲイナゴ *Oxya japonica* (Thunberg, 1824)

[文献記録] 生田緑地（雛倉, 2016）；柵形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

次種と比較すれば個体数は明らかに少なく、稀な種である。その生息実態については、今後の継続調査を要する。

コバネイナゴ *Oxya yezoensis* Shiraki, 1910

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；柵形（生田緑地）；柵形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

[記録] 1♀, 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20171024, 川島目撃; 1♀, 同前, 20171018, 川島採集 (KMM-IN-09000390); 1♀, 同前, 20171027, 川島目撃。

湿地や湿田を好む種であるため、そのような微環境が限定される生田緑地においては、普遍的にみられる種とはいえない。中央広場周辺では、周縁部の刈り残された部分で時折みられる程度である。

ショウリョウバタ *Acrida cinerea* (Thunberg, 1815)

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；柵形7丁目（生田緑地）；柵形（生田緑地）（川島他, 2017）；柵形山（佐藤, 1981）。

[記録] 1♂, 柵形（生田緑地）, 20120821, 永井一雄採集 (KMM-IN-09000340); 2♂2♀, 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170827, 川島目撃; 1♂, 同前, 20170921, 川島採集 (KMM-IN-09000392)。

通常、きわめて普通の種であるが、一定の面積を伴う草地などの微環境の少ない生田緑地での生息域は限定的で、その個体数も多くない。中央広場周辺では、管理の行き届いた芝生ではみられず、ツチイナゴなどとともに、周縁部にわずかに刈り残された草地部分に依存している。

ショウリョウバタモドキ *Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

[文献記録] 生田緑地（雛倉・坂本, 2007）；柵形（生田緑地）；柵形7丁目（生田緑地）（川島他, 2017）。

[記録] 1♂1♀, 柵形7丁目（生田緑地・中央広場脇）, 20170922, 川島・高梨目撃; 1♂, 同前, 20170924, 川島目撃; 1♀, 同前, 20170929, 川島・高梨目撃; 1♀, 同前, 20171005, 川島目撃。

生田緑地においては、除草などの管理を免れた、小面積のススキ

群落などに依存している。個体数には年変動があるようだが、生息地点では必ずしも稀な種ではない。♀では、背面が赤紫色を呈した個体がしばしばみられるが、このような個体は、例えば三浦半島ではみられず、神奈川県内においても地域性があるものようである。

ヒナバタ *Glyptobothrus martimus* (Mistshenko, 1951)

[文献記録] 柘形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

生田緑地においては稀な種で、個体数はきわめて少ない。

トノサマバタ *Locusta migratoria* (Linnaeus, 1758)

[文献記録] 柘形(生田緑地)(川島他, 2017)。

大型の本種が好む、一定の面積を伴う草地環境が皆無に近い現在の生田緑地においては、生息に適した微環境もほぼないものと考えられる。少なくとも、2014年度以降の確実な記録は得られていない。

クルマバタモドキ *Oeddaleus infernalis* Saussure, 1884

[文献記録] 生田緑地(雛倉, 2016); 柘形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

現在の生田緑地に残る、バタ科における数少ない大型種。草地環境が少ないため、緑地内の分布域も限定される傾向が強い。中央広場は草刈り等の管理の頻度が高いためか、攪乱の少ない周縁部にわずかにみられる程度で、個体数も安定していない。

イボバタ *Trilophidia japonica* Saussure, 1888

[文献記録] 生田緑地(雛倉・坂本, 2007; 雛倉, 2016); 柘形7丁目(生田緑地)(川島他, 2017)。

[記録] 6♂5♀, 柘形6丁目(生田緑地・日本民家園), 20170927, 川島目撃; 1♀, 柘形7丁目(生田緑地・中央広場脇), 20170827, 川島採集(KMM-IN-09000399); 1♂, 同前, 20170924, 川島目撃2♂, 同前, 20170929, 川島・高梨目撃; 2♂, 柘形7丁目(生田緑地・つつじ山), 20171018, 川島採集(KMM-IN-09000405-09000406)。

ノミバタと同様に、植え込み周辺など、面積の狭い露地面などでも比較的多くみられ、荒地地や空き地など、かなり人工的な環境にも進出する。

## 引用文献

浜口哲一・中原直子, 2004. バタ目 Orthoptera. pp. 139-188, *In*: 神奈川県昆虫談話会(編), 神奈川県昆虫誌 I. 神奈川県昆虫談話会, 314 pp., 小田原.

雛倉正人, 2011. 川崎の直翅類. pp. 189-203, *In*: 川崎市自然環境調査報告書 VIII. 7 pl.+239 pp., 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団, 川崎.

雛倉正人, 2016. 川崎の直翅類(追加記録). pp. 117-121, *In*: 川崎市自然環境調査報告書 VIII. 8 pl.+177 pp., 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団, 川崎.

雛倉正人・坂本憲一, 2007. 川崎市北部の直翅目の記録. pp. 260-266, *In*: 川崎市自然環境調査報告書 VI. 8 pl.+320 pp., 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団, 川崎.

川島逸郎・高梨沙織・加賀玲子・永井一雄・堀内慈恵, 2017. 川崎市青少年科学館所蔵昆虫綱(蜻蛉(トンボ)目・革翅(ハサミムシ)目・直翅(バタ)目・竹節虫(ナナフシ)目・網翅(ゴキブリ)目・等翅(シロアリ)目・蟻螂(カマキリ)目・広翅(ヘビトンボ)目・駱駝虫(ラクダムシ)目・脈翅(アミメカゲロウ)目・長翅(シリアゲムシ)目) 標本目録. 川崎市青少年科学館紀要, (27): 55-86.

日本直翅類学会(編), 2006. バタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 728 pp., 北海道大学出版会, 札幌.

佐藤勝信, 1981. 神奈川県のコオロギ, バタ, カマキリ類その他について. pp. 227-231, *In*: 神奈川県昆虫調査報告書. 神奈川県教育委員会, 横浜.

寺山 守, 1981. 関東各都県におけるアリヅカコオロギの記録. 神奈川県報, (62): 15-19.